

中国・モンゴルのエスニックグループ

三本, 泉
九州大学大学院

<https://doi.org/10.15017/2339076>

出版情報 : 九州人類学会報. 32, pp.70-71, 2005-07-16. Kyushu Anthropological Association
バージョン :
権利関係 :

セッション C

中国・モンゴルのエスニックグループ

概 要

三本 泉 (九州大学大学院)

文化人類学やその隣接領域の学問においては、マイノリティをテーマとした研究は、大きな蓄積がある。それは、マジョリティに関する研究と比較対照することによって、マジョリティを対象とした研究設定からでは見ることができなかった問題を発見したりすることができるようになり、問題系をより豊かにすることが可能になるからである。

文化人類学の研究においては、エスニシティは大きな比重を占めてきたと言っても過言ではないが、いつの時代においても調査者が対象と係わり合い、調査の限界を計りながら、適切な問題設定を行えるよう試行錯誤しつつ、研究の新たな局面を開いてきたと言える。近年、マイノリティが面

する問題は、グローバリゼーションといった世界規模の現象に影響を受け、多様化しつつある。このような状況において調査者には、密接な実地調査に基づく対象（住民）の視点と、広範囲の動きを見失わないマクロな視点の両方が求められる。

このセッションでは、エスニシティをメインのテーマとしたが、それ以上の細かいテーマ設定をせずに、それぞれが自分の持ち前を生かせるように、三者三様の発表を行なうことにした。

中国東北部、新疆ウイグル自治区、そしてモンゴル国のエスニックグループを対象としてとりあげ、それぞれについて、移動とエスニシティ、言語教育、民族文化復興という3つの視点から観察し、調査を行なった上での成果を発表する。

発表者（報告順）

1. 中国延辺朝鮮族自治州の朝鮮族の移動とエスニシティ
—北朝鮮との経済関係を中心に—
李 勁松 (九州大学大学院)
2. 中国新疆のウイグル民族学校における「漢語教育」の推進とその背景
リズワン・アプリミティ (立命館アジア太平洋大学)
3. モンゴル国カザフ人の民族文化
三本 泉 (九州大学大学院)

セッションC:中国・モンゴルのエスニックグループ

